

## シナネンホールディングス株式会社 2021年3月期 決算説明会 質疑応答（要約）

---

**Q. 前期の業績に寄与した B to B 事業の仕入施策について詳しく教えてください。**

A. 価格競争力の高い油を海外経由で仕入れた上、北海道にあるタンクで貯蔵し、国内で展開するというを進めてきました。前期は原油価格の下落もあり、その施策が奏功いたしました。今期も引き続き、そのような形で進めている状況です。

**Q. コロナ禍において、御社の強みが発揮された事例があれば教えてください。また、その強みが発揮された背景に、御社の歴史や事業基盤がどのように寄与したかご教示ください。**

A. 我々は多様な事業ポートフォリオを持ち経営を推進していますが、コロナ禍においては、抗菌事業が非常に好調に推移しました。一方、コロナ禍で逆風の事業もありますが、全体的には大きな影響を受けなかったというのは、多様な事業展開を行っているが故ではないかと考えています。

弊社の歴史や事業基盤がどのように貢献したかという点、我々は長い歴史を持っているため、お客様、特に、LP ガス事業の販売店様との強い絆が構築されています。コロナ禍の状況においても、販売店様との協力関係が保たれているのは、信頼関係の賜物と考えています。

また、現在、我々は、非常に積極的に新規事業への取り組みを行っており、投資金額も増えている状況です。この点、投資を積極化できるのは、これまでの収益の蓄積により、強固な財務基盤があるからこそと考えています。

**Q. 業績予想にある住設機器の増販や環境ソリューションの増販等について、詳しく解説いただけますか。**

A. 営業支援システムを導入し、お客様のニーズ等の管理を徹底的に行い、最適な提案を行っていく仕組み作りを、現在、推進しています。また、コロナ禍で対面営業がし難い状況をチャンスと捉え、WEBサイトの充実や SNS 等を使ったウェブマーケティングを推し進めております。

**Q. マイクロ風車関連事業の実証実験を開始したとの事ですが、今年度の展開について具体的に教えてください、また、さいたま市以外でも設置する予定はありますか。**

A. マイクロ風車については、効率性が非常に良く、引き合いも多数いただいています。今年度は、できれば量産体制までもっていきたいと思っております。今後は、本格稼働に向けて、寒冷地や風の強いエリアなどでも実験を重ねていきたいと考えております。

**Q. グループ連携推進室の位置付けは、どのようなものか。また、収益拡大・業務の効率性を高めるために、どのような施策を展開するのか。**

A. 2015年のホールディングス化以降、これまでは、各事業会社の自律性を大事にしてきました。これからは、各事業会社の多様な事業について、横串を刺していくことによって、埋もれている収益源の発掘や顧客アプローチが可能になると思っております。

具体的には、電力事業は、現在、ミライフ西日本、ミライフ東日本、ミライフ、シナネンの4社が行っています。電力の仕入れについても、現在は、個社別々で行っていますが、仕入を統一化することも検討しています。また、建物維持管理事業で行っているサービスをミライフ3社のお客様に対して展開できないか、など様々なシナジー効果が生み出せると考えております。

**Q. カーボンニュートラルの取り組み事例があれば、教えてください。**

A. 再生可能エネルギー関連の事業に加え、「シナネンあかりの森でんき」という環境配慮型の小売電力販売も3月から開始しています。また、現時点では詳細は控えさせていただきますが、バイオマス分野でのエネルギー事業についても、今後進めていくという状況です。

**Q. 新たなバイオマス事業は、どの事業会社で展開する予定ですか。**

A. 現時点ではお答えできないが、事業の内容に即した事業会社で展開をしていく予定です。

**Q. ブラジル事業の撤退について、詳細をお教えてください、また、新規のバイオマス事業との関連などあればご教示ください。**

A. ブラジル事業は、2018年からフィジビリティスタディが終わり、テスト販売を開始しましたが、昨年来 COVID-19 拡大の影響もあり、販売が低迷していました。また、ブラジル外からの引き合いもあったものの、同じく COVID-19 拡大の影響により、海外輸出も断念しました。

そのような中、今後の事業継続について検討を行った結果、ブラジルのカントリーリスク等も考慮すると、別の新規事業の方が高い収益性を生み出せると判断し、撤退を決断いたしました。

一方で、我々はブラジル事業で様々な知見を得ました。特にバイオマス燃料については大きな知見を得ましたので、これをブラジルではなく、日本、または東南アジアの国々で展開できないかを、これから図っていきたいと考えております。

**Q. 今後の新規事業、とりわけ再エネ関連への投資額などを教えてください。**

A. 第二次中期経営計画は、第三次中期経営計画で大きく躍進するための期間と位置付けております。そのため、現在は、新規事業への投資を積極的に行っております。今年度で言うと、DX 推進も合わせて約 10 億円の投資を行います。そして、発表している事業以外にも再エネ関連への投資も検討していますが、現状でまだ発表できる段階にはなっておりませんので、再エネ関連の投資額については、全体でいくらになるかは、今の段階ではお答えすることができません。再エネ関連の取組み内容については、何らかの形で今期中には発表を行えればと思っております。

以上